

第11回永田町子ども未来会議

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会の取組み

- * 「我が子を通しての全国の保護者の悩み」
- * 現在、全肢Pは十分な根拠となるデータはありません。そのため、私の我が子の御話をしますが、決して、この話題は我が子だけの問題ではありません。
- * 個別の差はありますが、約18,000人の会員の保護者の悩みであることを、お伝えしたいと思います。

* 平成28年9月27日

* 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会会長

* 竹内ふき子

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

1958年(s33)東京都立光明小・中学校他6校により設立。

来年度60周年を迎える。今年度加入校215校・会員数約18,000人

全国を6ブロックに分けそれぞれ研修会などを開催。

全会員の集う全国大会は年に1度開催。開催地は各ブロックを順番に回る。

この大会は校長会との合同大会である。

<全国大会プログラム>

- 基調講演（文科省・調査官より） ○ 記念講演（開催地より選出）
- 6分科会<学校・地域・福祉・進路・医療・機器>助言者に厚労省・特総研より
- ワールドカフェにてグループディスカッション

子ども達一人一人の身体の状態は違います。家庭環境、地域環境、教育環境も違いがあります。抱えている課題にも違いはあるでしょう。そんな私たち保護者が今、繋がりを持つことは一番必要な事なのではないでしょうか。不安は知ることから解決の糸口が見えます。知ることは考えるきっかけになります。考えることは行動する力が付きます。一人では行動できないことも繋がり合う仲間がいると、きっと1歩前に進めるはずです。一人ではないと思える、それが連合会です。全国の皆さんが連合会を介して繋がりを感じてくれることが願いです。

第59回全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会 総会およびPTA・校長会合同研究大会（宮城大会）



肢体不自由になってからの現在と未来

医療と福祉

療育

3歳～

教育

就労？

1歳8ヶ月で急性脳症
大学病院に3ヶ月入院
四肢体幹機能障害

てんかん

視力なし

経管栄養・吸引

抗痙攣剤服用



都立療育センターに訓練
入院

・医療的ケアの訓練

・PT、OT、STの訓練

療育センター乳児通園に
母子通園

療育センター幼稚部に入
園

盲学校相談室・幼児クラス
参加

都立城北特別支援学校入学
自立活動を主とする教育課程
復籍交流

(小学部6年間直接交流
中学直接交流2年目)

外部専門家による指導
担任、グループ担当による指導



不安

高等部を卒業
するとほとんどの
子供たちは
教育の場がな
くなる。

療育と教育の連携

障がい児が医療的配慮のもとで育成されること
教え育てること。知識、技術などを教え授けること

<療育期(幼児)>

母子通園 (医療型センター内、診察、処置あり)

機能訓練 (通園と同施設での実施)

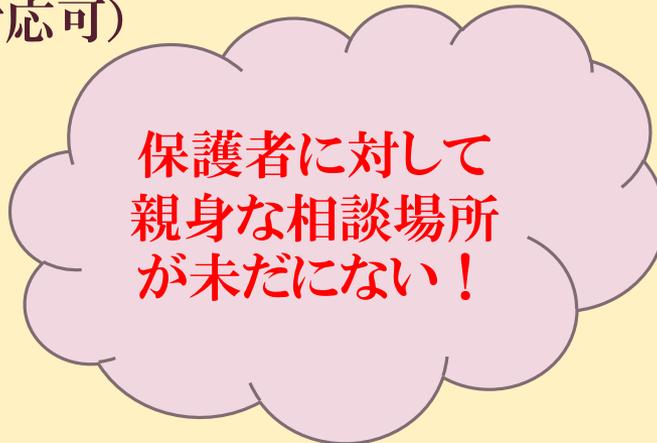
定期診察 (主治医診察) 大学病院(入院対応可)

<就学時の悩み>

・学校選び (肢体不自由・盲学校)

・機能訓練の受け方

・医療的ケアの実施と母子分離



保護者に対して
親身な相談場所
が未だにない!

<教育期(特別支援教育)>

教育に結びつく機能訓練の実施

看護師による医療的行為実施の制限

相談支援の充実

保護者同行の学校行事参加

<卒業後>

卒業生の行き場 ~卒業生の受け入れ、卒業後の余暇、リハビリ等
(医療的ケアを必要とする卒業生の受け入れが少ない。)

保護者の高齢化

今後の全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会の取組み 「我が子の明るい未来のために」



1 関係機関との連携の強化(情報の発信と共有化)

- 会員の意見の集約
- 関係機関等の情報収集
- SNS等の情報の共有化

2 全国の新たな会員の発掘と人材育成

- 訪問学級の保護者の参画意識の向上
- 就学前の保護者との連携
- 相談機能の発揮
- 地方の特色化

3 団体の自立化

- 会報誌の充実化
- 企業との連携
- 全国大会の充実(平成29年8月第60回東京大会開催)

